

2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果 (2016年6月発行)

第7回調査

6月1日時点の就職活動調査

売り手市場が続く中、2017年卒業予定者の採用面接が正式に解禁され、就職活動が山場を迎えている。6月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は5割を超えていたことが分かった。

1. 6月1日現在の内定状況

- 内定率は54.9%。先月(29.1%)より25.8ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは30.7%。継続が64.0%

2. 内定業界と企業規模

- 「情報処理・ソフトウェア」が依然最多。「保険」と「銀行」が急増
- 内定企業の従業員規模は、1,000人以上の大手企業が57.9%を占める

3. 選考解禁日(6月1日)の企業からの呼び出し

- 6月1日の「1次面接」の呼び出しを受けたのは42.3%。「最終面接」は22.6%

4. エントリー社数とセミナー参加社数

- エントリー社数の平均は43.2社。先月からの伸びはわずか0.4社
- 企業単独セミナーへの参加社数は16.9社。前年実績を下回る

5. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出社数は15.9社。前年同期より3.7社増加
- 選考試験の受験社数は、筆記11.4社、面接7.8社、グループディスカッション3.5社

6. 今後の就職活動

- 選考中の企業は4.8社。就職活動を終えたい時期は「6月」に集中。「7月後半」までで8割

7. 内定後のフォロー

- 就職決定に必要なのは「現場社員との面談」(54.8%)。実際の面談は31.5%にとどまる

8. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

- インターン参加企業の本選考への応募は74.9%。応募者の40.5%が内定獲得。

9. 今年の採用スケジュールへの賛否

- 6月選考解禁に「賛成」25.0%、「反対」36.3%、「どちらともいえない」38.7%
- 就職活動前調査(昨年11月実施)よりも賛成派が大幅に減少(43.2%→25.0%)

調査概要

調査対象 : 2017年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,188人(文系男子391人、文系女子366人、理系男子286人、理系女子145人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2016年6月1日~5日
サンプリング : キャリタス就活2017学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. 6月1日現在の内定状況

就職活動スタートから3カ月。6月1日現在の学生モニターの内定率は54.9%。先月調査(5月1日現在)の29.1%から1カ月で25ポイント以上と、大きく伸びた。これは前年同時期(35.1%)を19.8ポイント上回る数字だ。但し「選考解禁時」の実績と比較すると、昨年8月は7割近い内定率(67.3%)だったので、10ポイント以上低い。昨年は8月1日の選考解禁を待ちきれずに選考を開始し、内定を出すケースが多かったため、多数の学生が内定を持った状態で選考解禁日を迎えるといった異例の事態となったが、今年は解禁が早まった分、やや緩和されたと言える。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了した者の割合は約3割(30.7%)にとどまり、6割強(64.0%)は就職活動を継続していると回答。内定は得ているものの本命企業の内定はこれから、という学生が多いと見られる。6月が大きな山場であることは間違いなく、この1カ月の動きに注目したい。

6月1日現在の内定状況

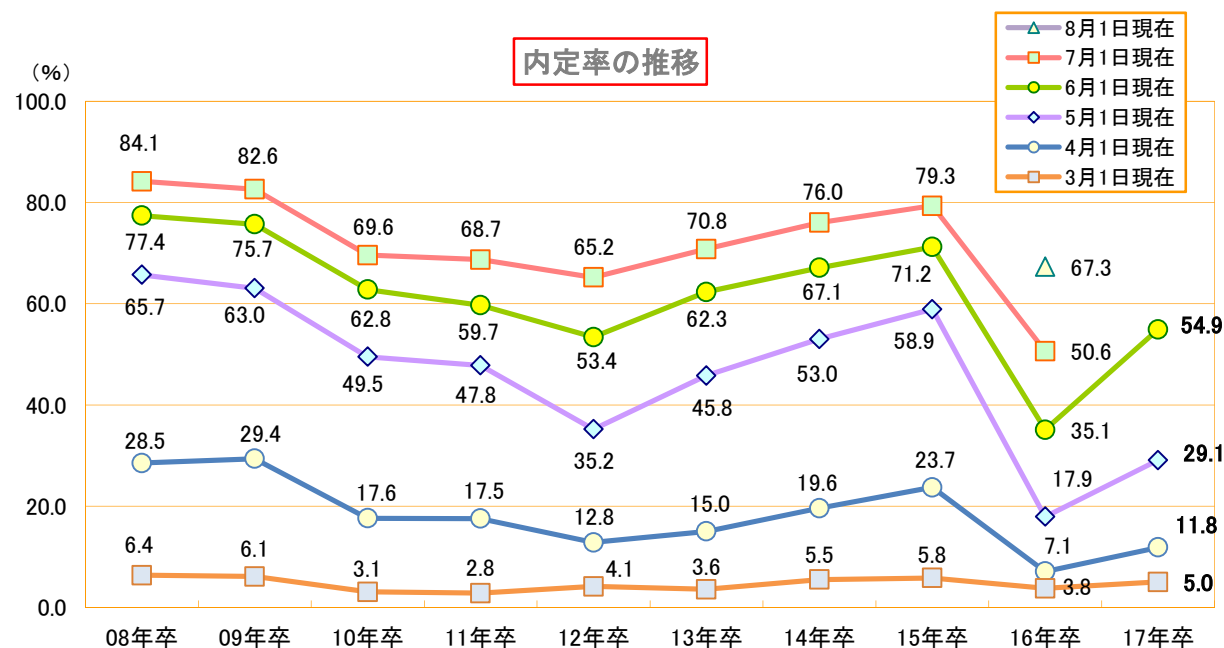
*「内定」には、内々定を含む (%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		54.9 (29.1)	50.9 (29.2)	56.0 (26.6)	57.3 (31.4)	57.9 (30.3)
内定なし		45.1 (70.9)	49.1 (70.8)	44.0 (73.4)	42.7 (68.6)	42.1 (69.7)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	30.7 (17.1)	21.6 (12.5)	20.5 (10.4)	54.3 (29.9)	31.0 (18.6)
	活動は終了したが複数内定保持	5.1 (1.4)	4.0 (0.8)	4.9 (1.0)	5.5 (2.3)	7.1 (2.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.3 (0.6)	0.0 (0.8)	0.5 (0.0)	0.6 (1.1)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	64.0 (80.9)	74.4 (85.8)	74.1 (88.5)	39.6 (66.7)	61.9 (79.1)

(社)

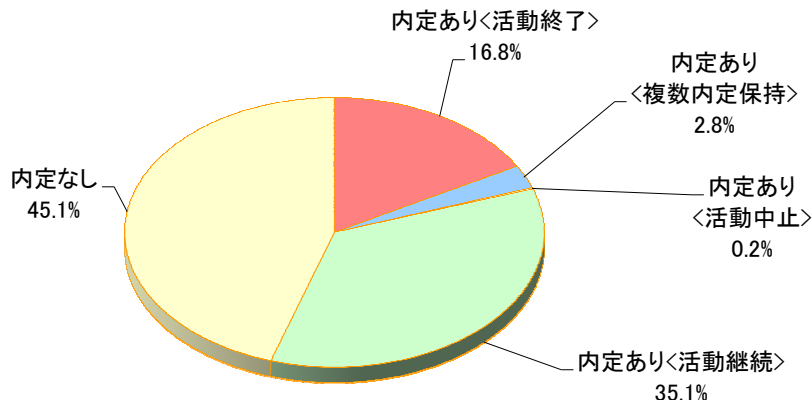
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.9 (1.4)	1.9 (1.5)	1.7 (1.3)	2.0 (1.6)	2.1 (1.5)

※ () 内は先月(5月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

学生モニターの内定の有無および活動状況



2. 内定業界と企業規模

6月1日現在で内定を得ている学生に、内定企業の業界を聞き、上位業界をまとめた（全40業界。複数回答あり）。

5月調査に引き続き「情報処理・ソフトウェア」が最も多く、30.4%と依然内定が集中している。文系男子以外の属性で1位であり、とりわけ理系男子では41.5%と極めて高い数字が出ている。

2位は「建設・住宅・不動産」（16.0%）、3位は「調査・コンサルタント」（10.9%）で、先月（5月）調査と順位が入れ替わった。

5月調査から大きく順位を上げたのが4位「保険」（9.5%）、5位「銀行」（7.7%）の金融機関で、保険は15位から、銀行は28位から急激に上昇した。とりわけ文系で順位が高く、文系学生を中心に一気に内定が出た様子がうかがえる。

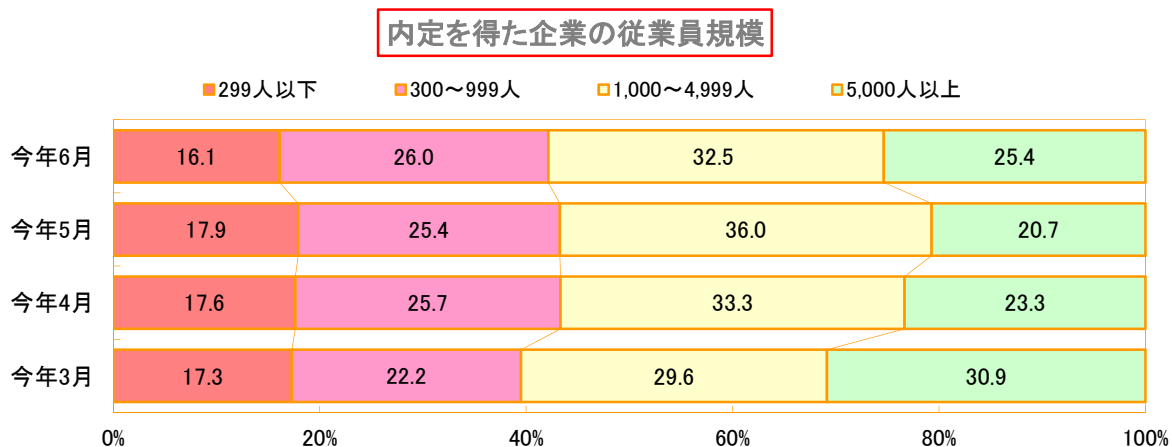
内定を得た業界（上位 10 業界）

※5つまで選択（%）

全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 30.4	調査・コンサルタント 21.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 23.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 41.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 53.6				
2	建設・住宅・不動産 ③ 16.0	建設・住宅・不動産 20.6	保険 13.7	建設・住宅・不動産 19.5	医薬品・医療関連・化粧品 22.6				
3	調査・コンサルタント ② 10.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 18.6	専門店 10.7	電子・電機 15.2	建設・住宅・不動産 16.7				
4	保険 ⑮ 9.5	銀行 12.1	銀行 10.2	素材・化学 12.2	情報・インターネットサービス 15.5				
5	銀行 ⑳ 7.7	保険 11.6	コンビニエンス・GMSストア 8.8	運輸・倉庫 8.5	水産・食品 8.3				
6	専門店 ⑤ 7.2	商社（専門） 9.0	教育 8.8	機械・プラントエンジニアリング 8.5	人材紹介・人材派遣 8.3				
	情報・インターネットサービス ④ 7.2	専門店 7.5	建設・住宅・不動産 8.3	医薬品・医療関連・化粧品 7.9	電子・電機 7.1				
8	電子・電機 ⑨ 6.6	証券・投信・投資顧問 7.0	商社（専門） 8.3	調査・コンサルタント 7.3	素材・化学 6.0				
9	コンビニエンス・GMSストア ⑩ 6.1	情報・インターネットサービス 6.5	情報・インターネットサービス 7.3	水産・食品 7.3	保険 6.0				
10	商社（専門） ⑦ 6.0	運輸・倉庫 6.5	ホテル・旅行 6.8	人材紹介・人材派遣 6.1	調査・コンサルタント 6.0				

※○の中の数字は先月調査の順位

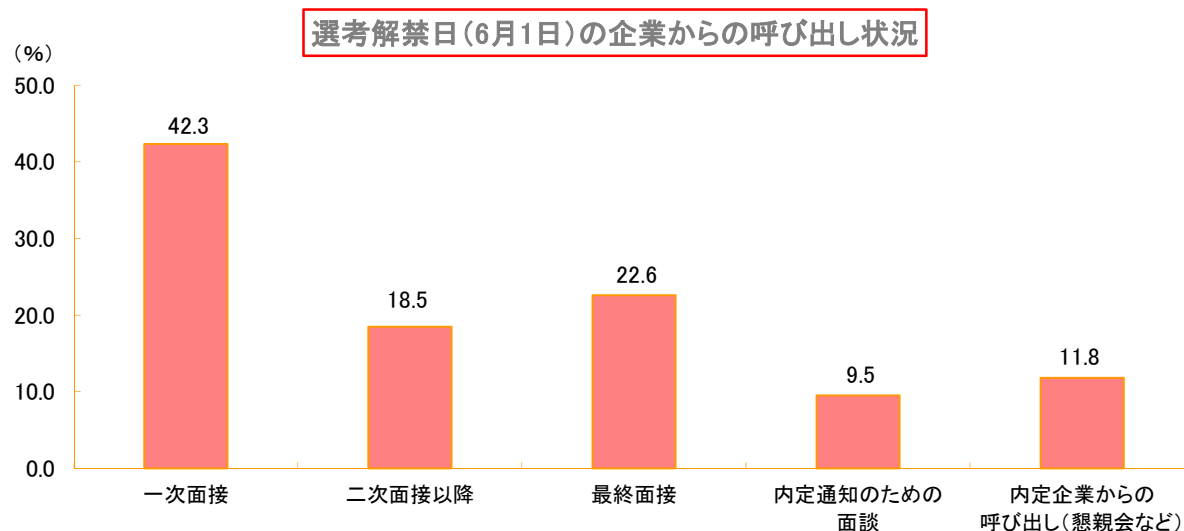
また、内定を得た企業の規模もあわせて尋ね、その比率を算出した。5月調査までは、従業員「5,000人以上」の大企業の占める割合が毎月下がっていたが、ここにきて増加に転じたのが目立つ。先月まで学生から報告された「5,000人以上」の企業は、ITや通信などのいわゆるメガベンチャーや外資系コンサルティング会社などがほとんどだったが、今回は経団連加盟企業を中心とした大企業が多く挙げられており、選考解禁後にスピード内定を出したことが想像できる。



※複数の企業から内定を得た学生がいるため、100%換算し、算出した

3. 選考解禁日(6月1日)の企業からの呼び出し

選考解禁当日(6月1日)の呼び出し状況を調べた。呼び出しの内容を複数回答で尋ねると、最も多かったのはやはり「一次面接」で4割強(42.3%)にのぼった。しかし、「最終面接」が2割以上(22.6%)、「内定通知のための面談」も約1割(9.5%)あり、選考解禁日が最終局面というケースも少なくなかったようだ。



4. エントリー社数とセミナー参加社数

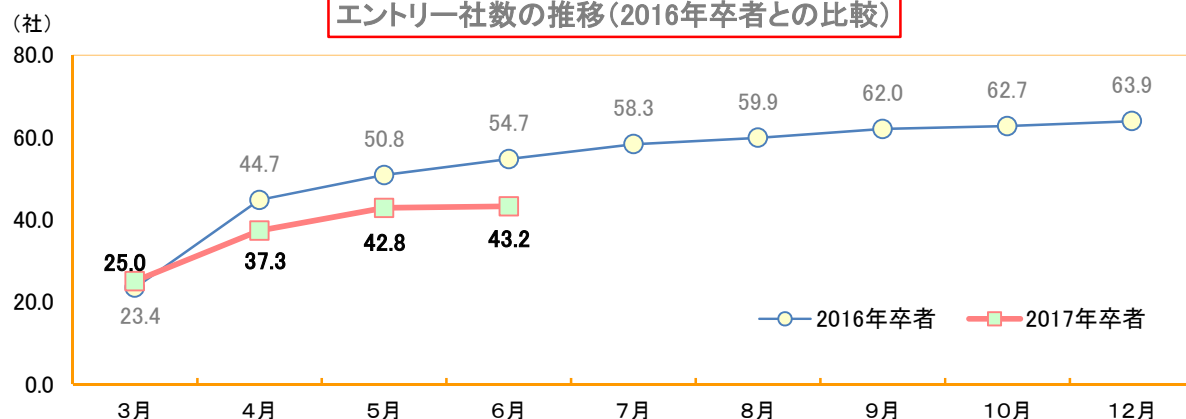
採用広報解禁から3カ月が経過し、選考解禁を迎えた6月1日時点での就職活動量について、先月調査(今年5月)や前年度調査と比較しながら確認してみよう。

まず、一人あたりのエントリー社数の平均は43.2社。先月(5月)時点の42.8社から微増にとどまり、前年同期調査(54.7社)を11社あまり下回った。今期は解禁後のエントリーの伸びが鈍く、早い段階から企業を絞り込み、途中で新たな企業へと関心を広げることが少ないまま就職活動を進める学生が多かったことが推測できる。

6月1日現在のエントリー社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー社数	43.2	46.2	50.8	31.0	39.6

エントリー社数の推移(2016年卒者との比較)

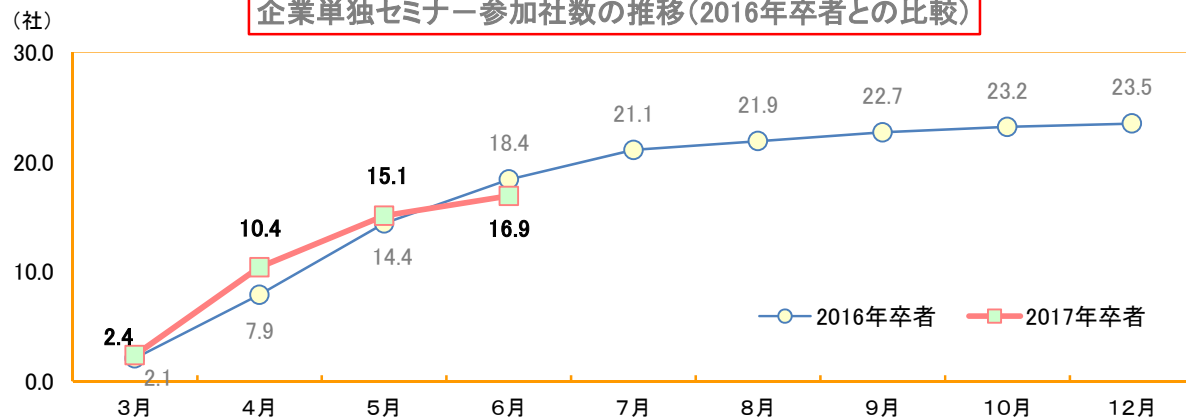


次に企業単独セミナーへの参加社数を見ると、16.9社でエントリー同様に先月調査からの伸びは鈍く、前年同期(18.4社)を下回った。選考時期が早まったことで、5月はセミナーに出るといよりも、筆記試験を受けたり、面接の準備に時間を費やしたりする学生が多かったようだ。「選考解禁月」同士で前年と比較すると、昨年8月は21.9社だったので5社少ない水準だ。

6月1日現在のセミナー・会社説明会参加社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
セミナー・説明会参加社数	40.7	44.3	46.6	31.2	34.5
企業単独開催のもの	16.9	18.6	19.7	12.4	14.1
合同開催のもの	12.8	14.6	14.3	9.0	11.7
学内開催のもの	11.0	11.1	12.6	9.8	8.8

企業単独セミナー参加社数の推移(2016年卒者との比較)



5. 選考試験の受験状況

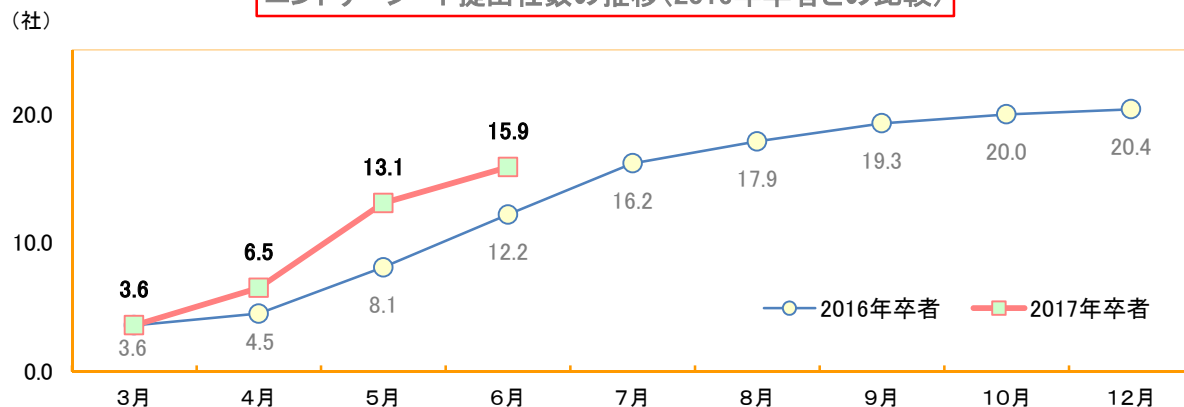
選考プロセスについても社数を確認してみよう。エントリーシート (ES) の提出社数の平均は、先月 (5月) からの1カ月で2.8社増加し、15.9社となった。前年同期 (12.2社) を上回っているが、企業セミナーと同様に「選考解禁月」という軸で前年実績と比較すると、前年8月調査 (17.9社) には届いていない。また、昨年は4月から7月まで一定のペースで提出していたのが、今年の場合は4月の1カ月に集中して提出していた様子を読み取れる。

筆記試験や面接試験に関しては、前年同時期との比較 (6月調査との比較) ではいずれも前年を上回っているが、「選考解禁月」同士で比較すると、やはり前年8月調査の水準には届かず、期間が短くなった分、受験企業数が減少したことがわかる。

6月1日現在のエントリーシート提出社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート提出社数	15.9	17.2	16.3	13.6	16.0

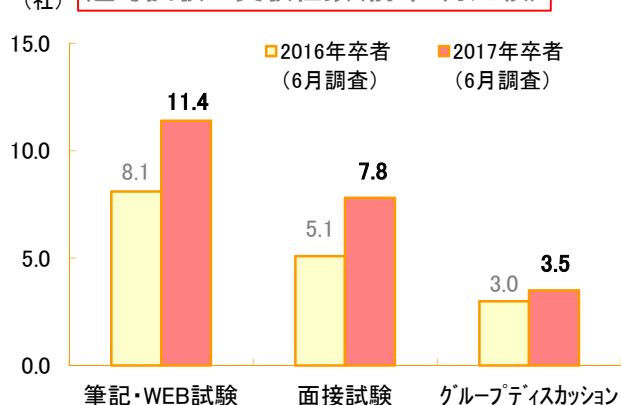
エントリーシート提出社数の推移 (2016年卒者との比較)



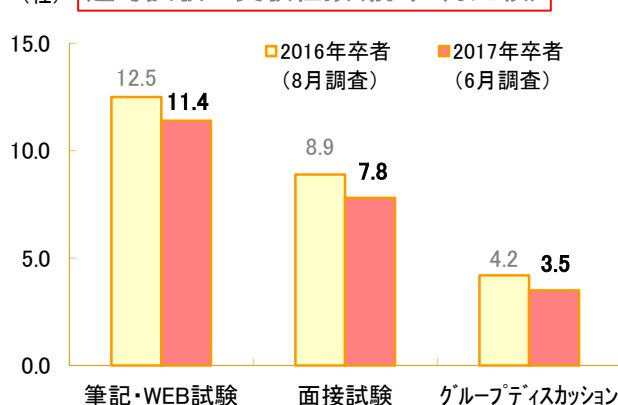
6月1日現在の選考試験受験社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験	11.4	12.6	12.0	9.8	9.6
面接試験	7.8	8.6	8.1	6.6	6.8
グループディスカッション	3.5	3.8	3.6	3.0	3.0

選考試験の受験社数 (前年6月比較)



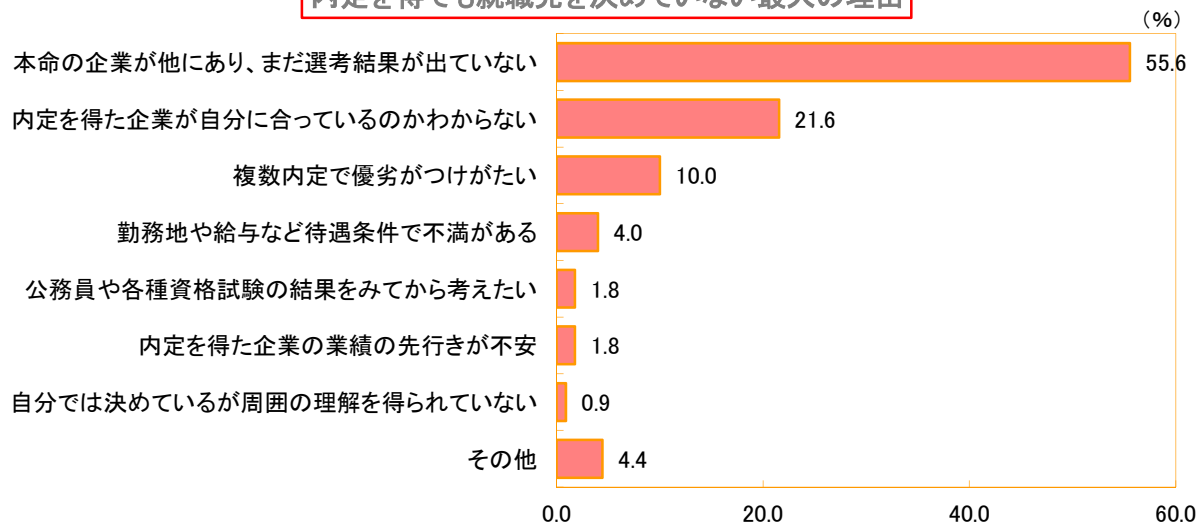
選考試験の受験社数 (前年8月比較)



6. 今後の就職活動

2 ページで見たように、内定取得学生のうち 6 割強 (64.0%) は就職活動を継続しており、「活動は終了したが複数内定保持」(5.1%) を合わせると、7 割近くが内定を得ても就職先を決めていない。その最大の理由を尋ねると、圧倒的に多いのが「本命の企業が他にあり、まだ選考結果が出ていない」で、半数を超えている (55.6%)。6 月から選考を行う企業を本命にしている学生がそれだけ多いことを裏付ける。

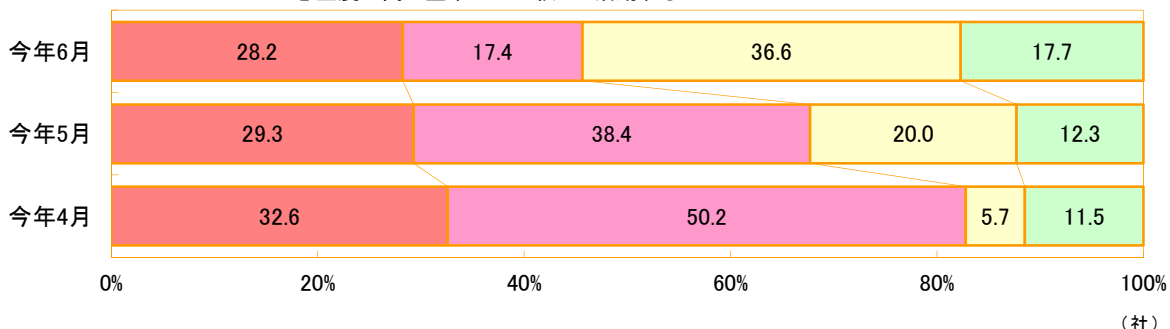
内定を得ても就職先を決めていない最大の理由



内定保持者も含め、6 月 1 日現在で就職活動を継続している学生 (モニター全体の 80.2%) に、今後の就職活動の方針・戦略について尋ねると、最も多いのは「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」(36.6%) だった。選考中企業の平均社数は 4.8 社 (下表)。一方、「これまでに興味をもった企業を中心に」は大きく割合を下げており、絞り込みが進んでいる様子が分かる。選考の最終局面に近い段階にいる学生が多いと推測できるが、もし「現在選考が進んでいる企業に絞って」や「志望度の高い企業に絞って」と回答した層が希望の企業から内定をもらえなかった場合、新たな企業に目を向ける必要性に迫られる学生も出てくるだろう。昨年場合は、選考解禁の翌月調査 (9 月調査) で、「新たな企業を探しながら」との回答が急増している (8 月 21.3%→9 月 34.6%)。

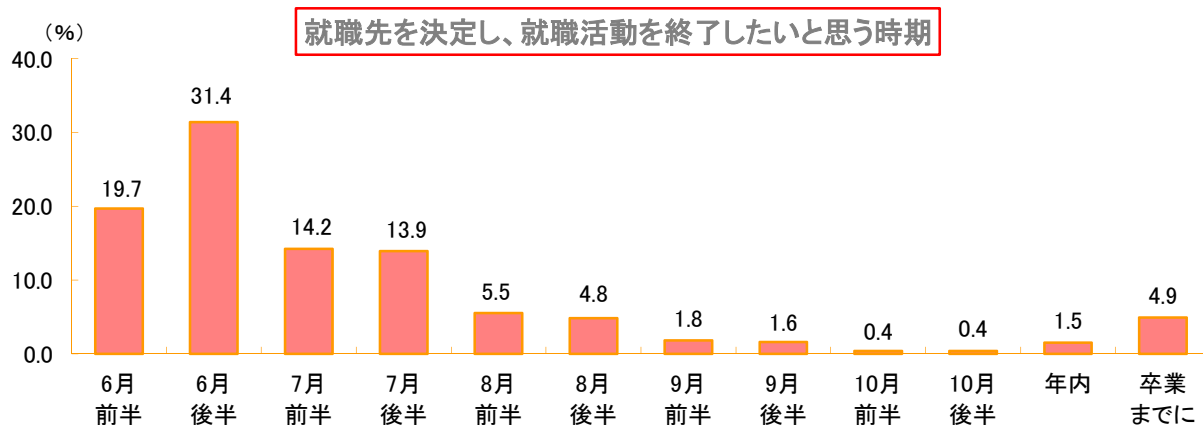
今後の就職活動の方針・戦略

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業のみ絞って活動する



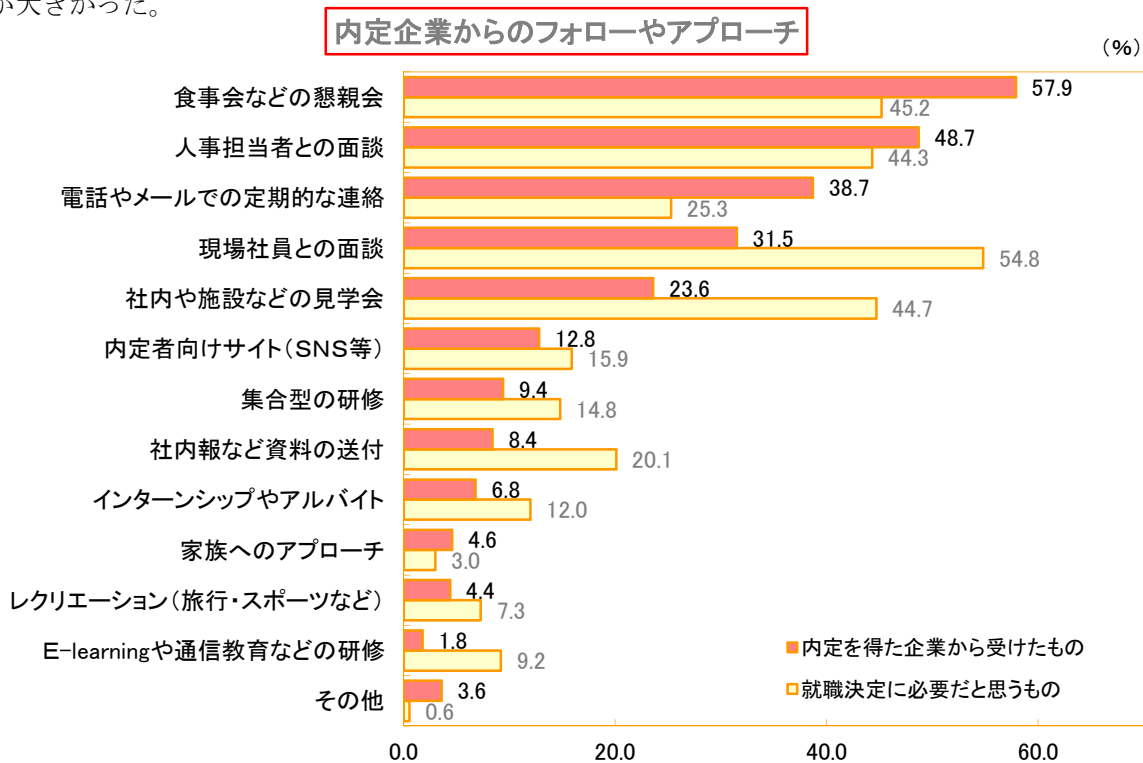
	全体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	4.8	4.6	5.0	5.1	5.5	4.3	3.3

内定有無にかかわらず就職活動を継続している学生に、就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねたところ、「6 月後半」との回答が 3 割強で最も多く (31.4%)、これに「6 月前半」が 19.7% で続く。6 月の合計は過半数にのぼり (51.1%)、就職活動中の学生の多くは、この 1 カ月のうちに就職先を決めたいと考えていることがわかる。これまでの調査でも、「6 月」の山場に向けて目標を定めている様子がうかがえたが、現段階でもその意向に変化は見られない。7 月後半までを合計すると 8 割に迫り (79.2%)、大学の夏休み前が一区切りと捉えられていることから、採用予定に達していない企業にとっては、7 月が次の山場になると予想される。



7. 内定後のフォロー

これまでに内定を得た企業から実際にあった内定後のアプローチを尋ねると、「食事会などの懇親会」(57.9%)、「人事担当者との面談」(48.7%) の順に多かった。一方で、内定を得た企業に就職するかどうかを決めるために必要だと思うフォロー内容を尋ねると、「現場社員との面談」が 54.8% で最も多い。実際に現場社員との面談があったのは 31.5% にとどまるが、早い段階で実施することで内定承諾につながる可能性をうかがわせる。他に「社内や施設などの見学会」も学生ニーズと実際の乖離が大きかった。

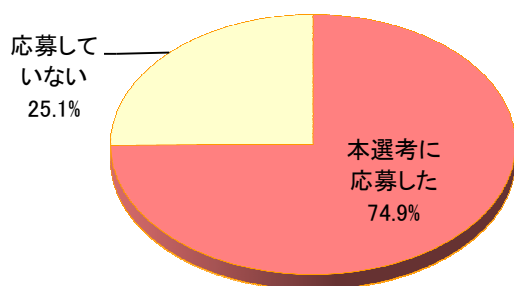


8. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

就職活動前にインターンシップを経験することが一般化しつつあるが、インターンシップ参加企業に実際に応募した学生はどの程度いるだろうか。インターンシップ参加経験のある学生に尋ねたところ、「本選考に応募した」との回答は7割を超えていた(74.9%)。応募社数の平均は2.8社。今回調査のインターン平均参加社数は4.5社だったので、高い割合で応募していると言える。応募者のうち実際に内定をもらった経験を持つのは約4割(40.5%)で、内定社数の平均は1.3社だった。

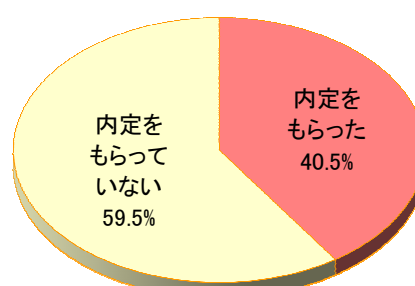
本選考に応募した理由を尋ねると、「インターンシップを通じて志望度が高まった」が最も多く(61.7%)、「インターンシップ参加学生の優先ルートがあった」(42.5%)がこれに続く。インターンシップが応募につながるかどうかは、インターンシップの内容だけでなく、その後の施策も影響することがうかがえる。

インターン参加企業の本選考への応募



* インターンシップ参加経験者が回答

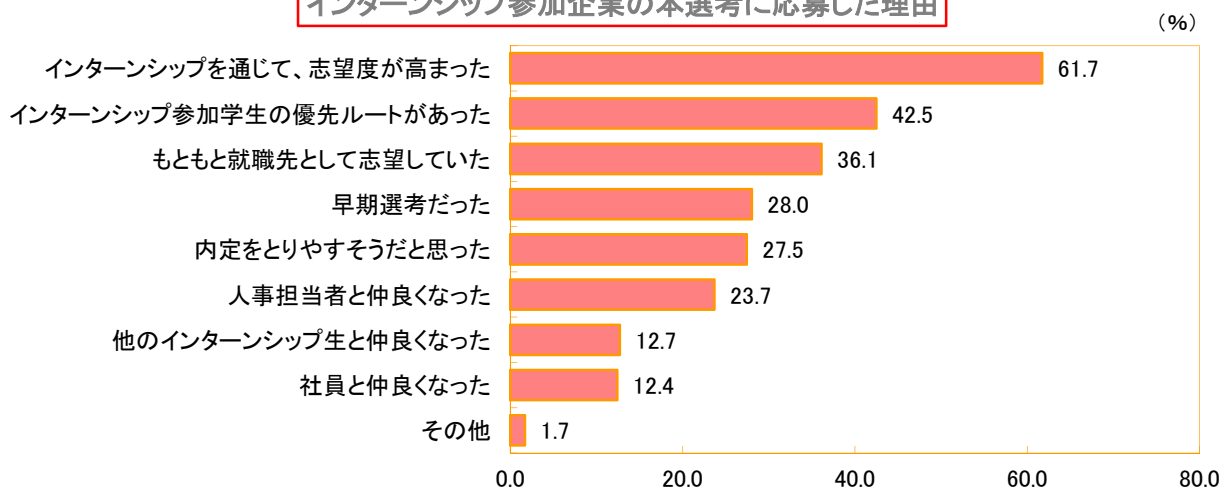
インターン参加企業からの内定



* インターンシップ参加企業の本選考応募者が回答

インターン参加社数	うち本選考応募社数	うち内定社数
4.5社	2.8社	1.3社

インターンシップ参加企業の本選考に応募した理由



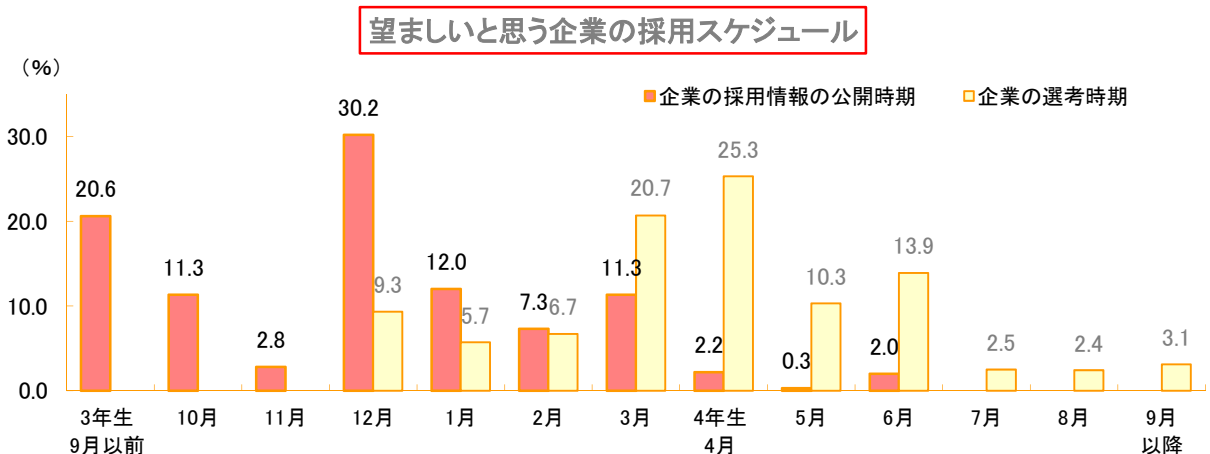
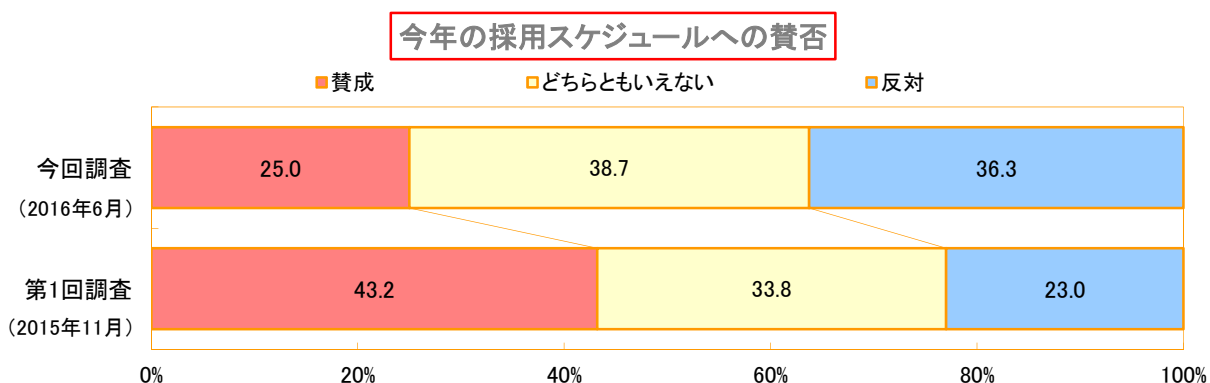
■インターンシップについて

- インターン生の優先選考はありがたいと思った。 <文系女子>
- 大手志望の学生は、優先選考に乗れないとたいへん厳しい就活だったと思う。後輩には絶対にインターンに参加して早期選考に乗ることを勧めたい。 <文系女子>
- インターン生は有利という言葉の意味が、10分~30分の面接で自分を表現しきれないところを長い時間過ごす中で見てもらえる、という意味だと分かった。 <理系男子>

9. 今年の採用スケジュールへの賛否

選考解禁が8月から6月へと2カ月前倒しされたが、学生はどのように受け止めているだろうか。賛否を問うと、「賛成」が2割強 (25.0%)、「反対」が3割強 (36.3%) で、反対意見が賛成を10ポイント以上、上回った。就職活動前に行った調査では賛成のほうが多く、「長期化した先輩たちよりは良さそうだ」と歓迎ムードだったものの、いざ就職活動をしてみると不都合が大きかったということだろう。選考までの期間が短くなったことで「企業研究の時間が足りない」「連日会社説明会や面談があり授業に出られない」など、負担の大きさを嘆く声が多く寄せられた。

また、企業の採用情報はいつ頃から公開されるのが望ましいかを尋ねると、最も多いのは「3年生の12月から」(30.2%)。選考開始時期については「4年生の4月から」(25.3%)が最も多かった。これは2年前の2015年卒者までのスケジュールであり、当時のスケジュールが今なお支持されているようだ。



■スケジュールへの意見

○エントリーから選考開始の期間が大変短く、3月の解禁以降迷う暇がない。途中で路線変更しようと思っても難しい状況であった。ただ、早いうちから進路について情報を集め考えていた人にとっては、昨年よりも選考期間が短期化したのでよかった。 <文系男子>

○自分が事前に準備していないのが悪いということは分かるが、経団連が公表している期間のみで就職活動するには期間が短すぎる。 <理系男子>

○長くなりすぎるのも良くないが、企業理解をもっと深めたかった。 <文系女子>

○2年前のスケジュールに戻してほしい。 <理系男子>

○経団連は、企業に選考を土日か夕方・夜にしろと伝達しているが、ほとんどの企業が従ってなく、大学の授業とかぶってしまっている。 <文系女子>